

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	アップ・ライジング	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4 1/2** インチ

研磨剤

番

**比較対照ボール：フェニックス・ニューブリッド**

フレアーの幅  インチ

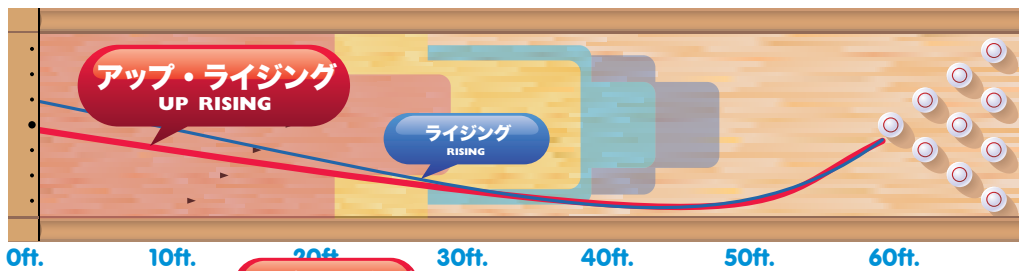
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

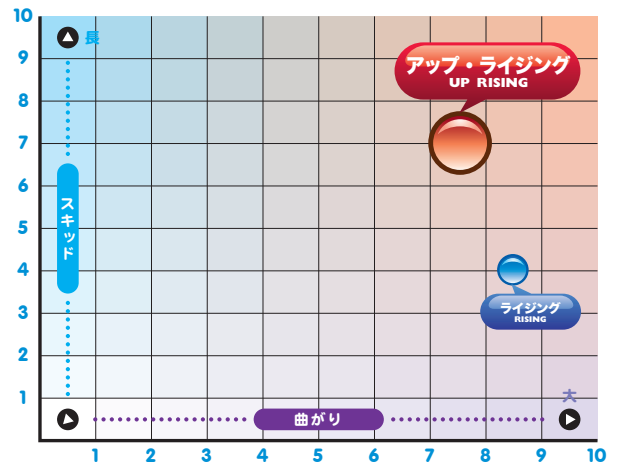
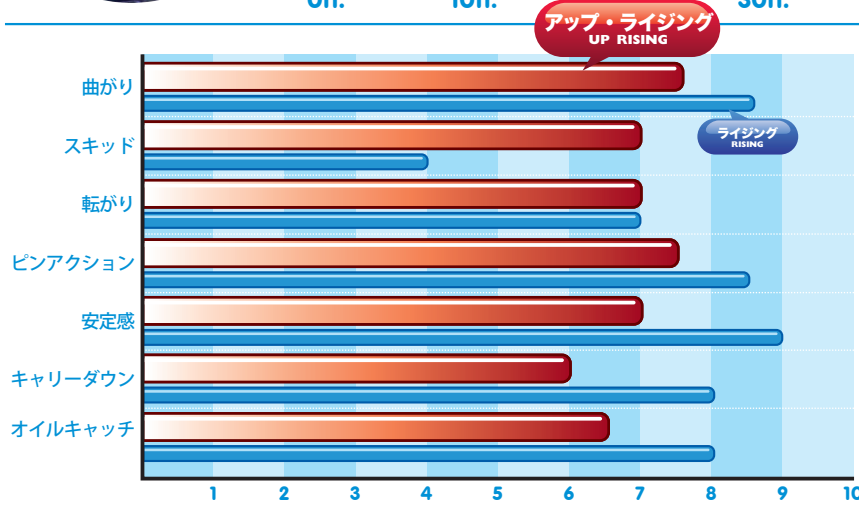
PAPからピンとの距離 **4 1/2** インチ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

先日行われたラウンドワンカップ2008で、Sasazuka Bowlの井口直之のプロ(ABS契約)がライジング・サン1つで驚異的なアベレージを残し、初優勝を飾りました。優勝するに「限りなく近い」ボールライジングに続くライジング・サン。早くもそのライジング次の担い手、第3弾UP RISINGが発売されます。

このUP RISINGは、カバーストックにトラック社で走りを重視するHP GEN 2 REACTIVEを採用し、ライジングと同様の強いMEGA TRONコアを使用。パワーの出方を遅らせ先まで温存することを目的として作られました。

投球したイメージは既存のライジングと比較するとそのリアクションの差は歴然で、オイルに強く、緩やかにパワーを放出しているライジングに比べると手前のスキッド力も強く、パワーの出方も遅く感じます。オイルの多いコンディションでは走る傾向が強くなる為、曲がり幅は大きくは感じません。スキッド力が強くなった分、バックエンドで激しく動こうとするのかと思えば、強いMEGA TRONコアの影響か、暴れずにピンヒットまでしっかりと軸移動するように出来ています。この性能からすると、ミディアムコンディションからライトなコンディション向きで、手前のオイルがブレイクダウンしたコンディション、または大会での後半で有効に使用することが出来るでしょう。

このボールがあれば、曲がり形状を変えずにライトなコンディションまでを対応することができ、「優勝に限りなく近い」ボールはすべてのコンディションにおいてその性能と如何なく発揮することができるでしょう。

私はこのUP RISINGがライジングシリーズとして新たな伝説を担うボールだと確信しています。

### 特記事項

**限りなく勝利に近いライジングそしてライジング・サン。その伝説を受け継ぐべくUP RISINGが発売されます。ミディアムコンディション以下のステージで余す事なくその性能を発揮してください。**